

股関節ガイドライン 重要用語・略語

鼠径部痛症候群

鼠径部痛症候群

方向転換やキック動作などが誘因となり、体幹から股関節の柔軟性（可動性）、筋力（安定性）、体幹や下肢の協調した動き（協調性）に問題となる機能障害が生じた結果、鼠径部周辺に慢性的な疼痛が惹起される症候群である。

協調性改善運動

運動に必要な筋群の収縮のみならず、不必要な筋群が弛緩するなど正常状態で運動を円滑に行うことができるようにする運動である。本ガイドラインで使用する協調性改善運動とは、wobble board、スライディングボードを使用した運動やバランス練習運動を指す。

大腿内転筋付着部炎

鼠径部痛症候群の 1 つであり、股関節周辺に明らかな器質的疾患がなく、骨盤周辺の機能不全に陥り、大腿内転筋付着部に炎症が生じた状態である。

腹直筋付着部炎

鼠径部痛症候群の 1 つであり、股関節周辺に明らかな器質的疾患がなく、骨盤周辺の機能不全に陥り、腹直筋付着部に炎症が生じた状態である。

スポーツヘルニア

鼠径管後壁の弱体化に起因し、スポーツ選手の鼠径部周辺の慢性的な運動時痛を呈する状態で、鼠径部の膨隆などのヘルニアの臨床所見を認めないものである。

恥骨結合炎

鼠径部痛症候群の 1 つであり、股関節周辺に明らかな器質的疾患がなく、骨盤周辺の機能不全に陥り、恥骨結合に炎症が生じた状態である。

大腿直筋炎

鼠径部痛症候群の 1 つであり、股関節周辺に明らかな器質的疾患がなく、骨盤周辺の機能不全に陥り、大腿直筋に炎症が生じた状態である。

腸腰筋炎

股関節周辺に明らかな器質的疾患がなく，骨盤周辺の機能不全に陥り，腸腰筋に炎症が生じた状態である．